



第32号

令和4（2022）年2月18日発行

会 員 募 集 中

年会費 3,000 円

10月以降入会 1,500 円

備前・備中のキリシタン ーその歴史と史跡を尋ねてー

会員（事務局長） 山田 良三

長崎二十六聖人

1597年2月5日（慶長元年12月19日）に、豊臣秀吉の命により長崎で26人のキリシタンが処刑されました。1862年に、当時のローマ法王ピオ9世が殉教した26人を聖人に列する宣言をしたので、「日本二十六聖人」、「長崎二十六聖人」などと言われています。26人の内訳は、フランシスコ会宣教師6人、日本人イエズス会修道士3

人、日本人信徒17人です。

秀吉は1587年（天正15年）にバテレン追放令を出しましたが、貿易の利からキリシタンの取り締まりは徹底されませんでした。ところが、1596年（慶長元年）のスペイン船サン・フェリペ号の漂着に伴う取り調べの過程で、スペインによる日本侵略を疑った秀吉が、突然宣教師や信徒らを捕縛し、長崎で処刑することを命じたのです。

歴・研・展・望

「なぜ、過去を研究するのか」。過去にとらわれないために過去を研究すると聞いたことがある。温故知新も当てはまるかも。過去の中から新しいものを見つける。若い頃も今も、物を知るために過去について勉強してきた。現在は、長い目での見方、考え方を身に着けようと学んでいる。ともかく先のことはわからない。過去を研究し、将来を推測するしかない。

ただ、注意すべきことを高校の世界史の先生が教えてくれた。邪馬台国の卑弥呼の件、これは魏志倭人伝に書かれている。日本側は「姫子」と言ったのに魏の国から見て、野蛮国の東夷（日本）の国にお姫様はいないということで、「卑弥呼」となった。歴史は書く側の都合で書かれる。

当会の顧問であった柴田一先生は「不思議発見」

が過去を調べる原動力だと強調されていた。コロナ禍の現在、私が気になるのは丁度百年前（大正7、8年頃）に大流行した「スペイン風邪」である。世界中で約1億人が罹り、約5千万人が死んだといわれている。ワクチンのない時代、どのようにして治まったのか不思議である。専門家に聞いてみたい。

その約10年前、明治39年に神社の合祀令が發布された。大正4年、楯築神社の御神体を近くの鯉喰神社に合祀した。その3、4年後、鯉喰神社のある地区の人がスペイン風邪で亡くなった。原因がわからないあの時代、議論の末、楯築神社の御神体を元に戻した。そして、昭和50年代、岡山大学による発掘調査で楯築神社（遺跡）は一躍有名になった。（会長代行 楠 敏明）

ディエゴ喜斎の受難

26人のうち、63歳と最年長だった市川喜左衛門（洗礼名ディエゴ喜斎）は備前国芳賀（現岡山市北区芳賀）の出身でした。喜左衛門は大坂で商人をしていましたが、イエズス会の宣教に触れて入信、熱心な信徒となり、会堂の門番や接待係をしていました。秀吉が命じたキリシタンの取り締まりは、当時フランシスコ会が対象だったのですが、役人が誤ってディエゴ喜斎など大坂のイエズス会信徒3人の名も挙げてしまい、26人の中に入れられたのです。

出身地芳賀の、果樹園が続く丘の頂に小公園があります。ここに「市川喜左衛門墓」が建っています。ここには「亀岩」という岩があり、地元の人々が「天主岩」とか「やこぼさん」と呼んで喜左衛



岡山カトリック教会のディエゴ喜斎像

門を吊っていたところでした。昭和33年、地元の市川数太氏他有志によって「市川喜左衛門墓」が建立されたとあります。地元では喜左衛門のことをヤコボと呼んでいたようです。ここ芳賀は、孝謙天



市川喜左衛門墓と小公園（岡山市芳賀）

皇の病氣平癒に験があったことで、大師号を日本で最初に賜った報恩大師の出身地ともされています。報恩大師は備前48ヶ寺を始め、今でも名利とされる備前や備中の寺院の開基となっている僧侶で、岡山の仏教の祖とも言うべき人物です。日本三大稲荷とされる最上稲荷も報恩大師の開基です。芳賀の日蓮宗顕本寺に産湯井戸が遺されています。

芳賀の丘陵上の「市川喜左衛門墓」のある小公園は、岡山カトリック教会（岡山市北区天神町）がディエゴ喜斎殉教400年を記念して整備したものです。毎年5月には、カトリック岡山教会から徒歩で公園まで歩いてミサを行っています。また、岡山カトリック教会では2001年に新しい聖堂が完成しましたが、その会堂の名称を「ディエゴ喜斎記念聖堂」と名付けて顕彰しています。さらに、会堂の脇にはディエゴ喜斎の像も建てられています。

備前国に広がるキリシタン

備前国では、報恩大師が定めた48カ寺など、もともと主要な寺院はその多くが天台宗でした。また、真言宗の寺院もあり、法然上人や一遍上人の影響を受けての浄土門の寺院もありました。大覚大僧正による布教とそれを保護した松田家により、「備前は悉く法華」と称されるほどに、特に備前西部を中心に寺院のほとんどは法華宗になりました。また、備前の東部にも幅広く法華宗が広がっていました。

ザビエルがキリスト教を日本にもたらし、主にイエズス会の宣教が進んでいくと、織田信長がイエズス会の布教を認めた京の周辺や九州ではキリシタンが飛躍的に増えていきました。ところが、そのころは備前・備中方面にはキリシタンはまだ広まっていませんでした。1581年のイエズス会の日本年報を見ると、諸国に急速

に布教が進んでいきますが、そのころは播磨までの記録がそのほとんどで、備前から先の記録は見当たりません。それが 1585 年になると、備前・備中にも急速に布教が進んでいったことが記録を見るとわかります。当時播磨国の黒田官兵衛や宇喜多家に仕えた小西行長など、早くからキリシタンとなったキリシタン武将の勧めもあって、宇喜多家の家臣や民の間にキリシタンが急速に広まっていったものと思われます。

中でも、キリシタンが備前国に拡大して行くことの転機となったのが 1594 年（文禄 3 年）でした。備前藩では、前田利家の三女で一旦秀吉の養女となって宇喜多秀家に嫁した豪姫が病となり、その平癒を法華宗の僧侶達に祈祷させたものの一向に験がありませんでした。そのことを怒った秀家は、家中の者たちに「法華からキリシタンに改宗せよ」と命じたのです。このことに譜代の家臣たちは反発します。当時備前国の家臣の多くが法華宗だったのです。そのころ備前国の執政が長船紀伊守（綱直）でした。長船紀伊守は大坂城の請負奉行をしている時に秀吉に見込まれ、宇喜多家の執政に取り立てられたのです。同じく文治派と言われる中村次郎兵衛などが当時の宇喜多家を取り仕切っていました。長船紀伊守が藩の執政を預かることで、宇喜多家中のみならず民の間にもキリシタンが増えていったのです。

明石掃部とキリシタン

1596 年、秀家の従弟の宇喜多直盛^{なおもり あきいえ}（詮家、左京亮、後の坂崎出羽守）の勧めから、後に宇喜多の家老となる明石掃部全登^{かもんてゐずみ}が受洗しました。その翌年、長崎で処刑される 26 人が備前を通ることとなった時、一行を監督する役目を明石掃部は任されたのです。赤穂で一行を迎えた明石掃部は、

殉難者の中でイエズス会のパウロ三木とは旧知の間柄でした。二人は再会の涙を流しました。赤穂を出た一行は片上で一泊となりましたが、掃部は彼らに手紙を書く暇を密かに与えました。そうして書かれたパウロ三木他



高知県香美市にある大坂の陣五人衆の墓にある明石掃部の墓

の手紙が遺されています。彼らの手紙には深い信仰の告白が綴られています。一行は、翌日は岡山城下に泊り、さらにその翌日には、備中川辺で毛利方に引き渡されました。

山陽道に行く受刑者一行の姿は備前の人々に深い感銘を与えました。引き立てられながらも彼らは篤い信仰の告白を、沿道の人々に述べ続けたのです。一行の通過後、備前国ではキリシタンが急速に増えたとの記録が残されています。処刑対象者は当初 23 人でしたが、途中で少年 1 人が加わり、さらに一行に離れず付いてきた 2 人を加えて 26 人が長崎で磔刑にされました。ディエゴ喜斎の遺骨の一部は長崎の「二十六聖人記念館」に保存されています。

明石掃部はこの出来事でキリシタンへの信仰をさらに篤くしました。宇喜多直盛と共に、大坂でイエズス会の神父 2 人の救出劇も演じています。布教にも熱心で、慶長 5 年（1600 年）の 1 年間に備前・備中・美作で新たに 2 千人が受洗、掃部の配下には 3 千人のキリシタンがいたとの記録が残されています。

宇喜多家のお家騒動

慶長4年（1599年）になると、宇喜多家にお家騒動が勃発します。当時、家宰として備前国を取り仕切っていた長船紀伊守ら文治派と、その采配に不満を持つ旧来の宇喜多家家臣の武断派との争いでした。この間に長船紀伊守は亡くなり、收拾がつかなくなって、最後は徳川家康が仲裁に乗り出します。家康の仲裁により、戸川達安、宇喜多直盛、岡貞綱、花房正成の4人が出奔、後に彼らは徳川の家臣となっています。反文治派は法華宗徒が多かったため、キリシタンと法華との争いとも言われますが、反対派のうち宇喜多直盛は明石掃部を導くなど熱心なキリシタンだった事からすると、必ずしも宗教上の対立とは言えないようです。

騒動の後、明石掃部が家宰となり宇喜多家を取り仕切ることとなりました。慶長5年（1600年）の関ヶ原の戦いで西軍に与した宇喜多勢は、福島正則を相手に善戦したものの、小早川秀秋の寝返りなどもあり敗北します。明石掃部は斬り死にしようとした主君秀家を諫め、大坂城に退かせます。秀家はその後薩摩に逃れ、島津家に匿われました。明石掃部は一旦岡山城に退きますが、秀家と連絡が取れず出奔し、その後は一時黒田家に身を寄せたとも伝えられています。その後大坂冬の陣、夏の陣で豊臣方武将として活躍します。最後の消息は不明ですが、大坂の陣五人衆の墓が高知県香美市に遺されています。

備中出身の千松兄弟と備前・備中の隠れキリシタン

徳川幕府のキリシタン禁制が強まる中でも当初は、支倉常長をローマに遣わした仙台藩や弘前藩など、東北の諸藩はキリシタンの取り締まりが比較的緩やかだったため、多くのキリシタンが西国

から東北に逃れていきました。永禄年間（1558～70年）に仙台領の大籠地方に、南蛮流の製鉄技術とともにキリスト教を伝えた、備中国有木出身の千松兄弟のことが記録に残されています。千松兄弟の布教により一時、大籠地方のキリシタンは3万人にもなったと言われます。しかし、幕府の取り締まりは、次第に東北各藩にも及ぶようになっていきます。幕府の意向に逆らうことは出来ず、東北諸藩でも取り締まりが強化され、仙台藩大籠のキリシタンも殉教の道をたどりしました。

備前・備中には「隠れキリシタン」の遺跡と思われる「マリア灯籠」などが数多く遺っています。足守の近水園のマリア灯籠や金川の妙覚寺境内のマリア灯籠が知られています。長船紀伊守に縁のある備前市香登にも、同じような灯籠があって見せてもらったことがあります。備前市香登は地元の大内神社に摂社・大避神社があり、秦氏と縁のあるところですが、山背大兄王が自害の後、秦大兄が逃れてきた伝承もあります。長船紀伊守の旗持だった紀井六助が、朝鮮出兵の折、朝鮮兵の鼻を供養した「鼻塚」もここに遺されています。

岡山藩政時代のキリシタン取り締まりの様子は岡山藩池田家の文書に記されており、尾山茂樹著『備前キリシタン史』（上下）に詳しく取り上げられています。隠れキリシタンは、何度も摘発がされ、その都度殉教者が出ています。



足守近水園マリア灯籠

日生諸島の鶴島に流された浦上のキリシタン

幕末～明治に到り、開国後の 1864 年、フランスから宣教師フェーレが来日し、長崎に教会堂を建てました。すると浦上の潜伏キリシタンが名乗り出て来たのです。ところが当時は、徳川幕府のキリスト教禁教政策はそのまま、明治新政府もそのまま禁教令を引き継いでいたため、彼らは拘束され諸国に流刑とされたのです。潜伏キリシタンの歴史では「浦上四番崩れ」と呼ばれた人達のことです。流刑者のうち 163 人が岡山藩預りとなり、浜野の松壽寺や弓之町の牢に拘留されました。さらにそのうち 117 人が、日生諸島の鶴島に流されたのです。流刑になった人々は、明治 6 年に解放されるまで過酷な生活を強いられ、そのうち 18 人が鶴島で亡くなりました。その殉難者の墓標が鶴島に建てられています。



備前市鶴島の殉難者墓標

小豆島のキリシタン

現在は香川県に属する小豆島は、古代から近世に至るまで備前国児島郡の一部でした。江戸時代は幕府の天領となり、倉敷天領の下に置かれ、後期には津山藩の飛び地でもありました。堺の商人から宇喜多に仕え、後に秀吉に取り立てられ大名になった小西行長は、秀吉から塩飽諸島と小豆島を与えられ、領主になります。行長は小豆島の領主となると、高山右近の後押しもあり領地の小豆島でキリシタンの布教に努めます。そのため約 4

千人の島民がキリシタンになりました。

1587 年、秀吉のキリシタン追放令が発せられると行長は棄教しましたが、棄教を拒んだ高山右近は改易となりました。その右近と宣教師オルガンチノを行長は秘密裏に小豆島に匿っていました。オルガンチノは現土庄町肥土山に、右近はさらに山奥の小豆島町中山に、しばらく潜伏していたと伝えられています。

小豆島の島民は行長が九州宇土に転封された後もキリシタンの信仰を守り続けました。聖職者がいないと出来ないミサも、携帯用神父の像を作り礼拝するなどして信仰を守り続けてきました。島の有力者の理解もあって、270 年の禁教期間中も甚だしい殉難もなく、信仰が守られ続けて来ました。現在、土庄町湊崎にあるカトリック小豆島教会には、小豆島宣教 400 年を記念して大阪の玉造教会から移設した高山右近像があります。また、内海町のオリーブ園には高さ 15 メートルもある日本一の高さの十字架が建てられています。



小豆島 高さ 15m の十字架



高山右近像（小豆島カトリック教会）

令和2年度決算報告

令和2年度の決算報告については、内容に一部不備があったため保留になっていましたが、事務局から訂正した内容のものが提出されましたので掲載します。御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

岡山歴研令和2年度決算

収入の部

項目	令和二年度予算	令和2年度決算	差額(残)	備 考
繰越金	113,308	113,308	0	
会費	450,000	376,500	△ 73,500	
各事業委員会事業収入	0	402,824	402,824	
その他収入(広告・寄付金)	200,000	0	△ 200,000	
合計	763,308	892,632	129,324	

支出の部

項目	令和二年度予算	令和2年度決算	差額(残)	備 考
事務費	通信費	150,000	83,121	66,879
	消耗費	15,000	15,508	△ 508
	印刷費	13,000	12,800	200
	事務局費	100,000	84,000	16,000
	小計	278,000	195,429	82,571
会議費	顧問会議費	5,000	0	5,000
	運営委員会費	10,000	12,040	△ 2,040
	正副会長会議費	5,000	1,760	3,240
	小計	20,000	13,800	6,200
活動費	総会費	80,000	0	80,000
	常設委員会	50,000	46,309	3,691
	事業経費	0	282,275	△ 282,275
	会報発行費	120,000	112,200	7,800
	HP管理費	40,000	12,184	27,816
	支払手数料	5,000	1,045	3,955
	小計	295,000	454,013	△ 159,013
予備費	35,090	0	35,090	
合計	628,090	663,242	△ 35,152	
支差額（次年度繰越金）	135,218	229,390		

特別会計(岡山の底カシリーズ及び十周年記念特別事業)

(1) 収入の部

項 目	令和二年度予算	令和2年度決算	差額(残)	備 考
繰越金	76,826	76,826	0	
特別会計(広告・寄付金)	0	181,000	181,000	
特別会計(十周年記念誌代)	0	35,000	35,000	
合計	76,826	292,826		

(2) 支出の部

項 目	令和二年度予算	令和二年度決算	差額(残)	備 考
十周年記念誌作成費	60,000	0	△ 60,000	
十周年記念事業	0	0	0	
CF事業経費	0	0	0	
合 計	60,000	0	△ 60,000	
支差額（次年度繰越金）	△ 60,000	292,826		

※ 繰越金は、令和3年度は、特別会計と分割して管理することといたします。

探訪会のお知らせ

『日生・鶴島ウォーキング&日生湾内クルージング』の御案内

来る3月15日（火）に、備前市日生において貸切り旅客船による日生湾に浮かぶ「鶴島」での歴史ウォーキングと日生湾内クルージングを開催いたします。「鶴島」は定期船も通わぬキリシタン悲劇ゆかりの私有無人島ながら、当日特別に上陸させて頂き歴史ウォーキングを楽しむことができます。皆さま多数のご参加申し込みをお待ち申し上げます。

〔行き先 備前市日生地区〕

1. 日 時 令和4年3月15日（火）10：30～ 少雨決行
2. 参加費 3,000円（オプション参加者は別途700円） 当日徴収
弁当と飲物は各自持参、マスク着用
3. 参加募集数 約30名（先着順）
4. 主なコースと探訪予定地

〔JR日生駅→湾内クルージング→鶴島ウォーキング→湾内クルージング→五味の市（昼食）→日生町内ウォーキング（徒歩または自家用車）→中南米美術館〕

- ・私有の無人島「鶴島」に上陸しておよそ1kmの歴史ウォーキング 60分
- ・日生湾内一周のクルージング 60分
- ・日生魚市場「五味の市」で昼食及び買い物 60分 一次解散 13：30頃
- ・以下、オプションで参加希望者は
「BIZEN 中南米美術館」の文化遺産観賞 60分 終了後全解散 15：00頃

5. 案 内

備前市観光ボランティアガイド協会 片山伸栄会長

6. 集合場所

JR 赤穂線日生駅 10：20 迄に集合（岡山駅発 9：25 → 日生駅着 10：19 の列車あり）

自家用車利用者は魚市場「五味の市 tel 0869-72-3655」無料駐車場を利用して、徒歩で JR 日生駅まで約15分

（解散は「五味の市」13：30頃、但しオプション参加者は15：00頃）

申込方法

参加ご希望の方は、氏名、郵便番号・住所、電話番号、集合地への交通手段（JR か自家用車か）及びオプション参加の有無をお知らせください。

申込先 工藤 博

電 話 090-4654-8964

FAX 086-466-0192

はがき 〒710-0803 倉敷市中島 2007-8

Eメール sw225442@tw.drive-net.jp



日生湾周辺図（矢印の先が鶴島）

歴研サロン等が開催されました

新型コロナウイルスによる感染状況が落ち着いてきた昨年10月、11月に開催された歴研サロン、日曜サロンの報告です。（場所はいずれも「ゆうあいセンター」）

令和3年10月13日（水）

「岡山の宗教史概説」（歴研サロン）

講師 事務局長 山田良三氏



参加者は21名。7月に岡山市内の蔭涼寺で開催された岡山・東京歴史シンポジウムで語られた「岡山の宗教史概説」の内容に基づき、山田良三氏が講演しました。法然や栄西を始め、岡山は日本の宗教史に多大な貢献をした偉大な宗教家を数多く輩出しています。本講演では、岡山の宗教及び思想の歴史と関係の人物について広く学ぶことができました。

併せて、10月1日（金）に実施された「総社市秦の郷」ウオーキングに関連して、日本の殖産などに変大な功績があった秦氏の歴史についての話がありました。（ウオーキングの報告は会報31号に掲載）

講演後は活発な意見交換があり、楽しい時間を過ごすことができました。

令和3年11月28日（日）

「奈良吉野と岡山（備作）とを結ぶ歴史人物10選 -後醍醐天皇ほか-」（日曜サロン）

講師 小川 肇氏



25名が出席。桜の名所として有名な吉野ですが、奥深いその自然や歴史の魅力とともに、古代から近世にかけてこの地を訪れた人々の中には、岡山（備作）と縁の深い人物が大勢いました。

後醍醐天皇や児島高德、楠木正成、藤本鉄石、森田節斎などゆかりの人物について、その足跡を語っていただきました。それ以外にも、報恩大師、西行、宇喜多秀家、熊沢蕃山、巨瀬金岡等の人物がいます。

今回はさまざまな観光パンフレットや案内地図も準備してくださり、大変わかりやすいお話で、吉野に思いを寄せることができたひとときとなりました。あらためて吉野に行ってみたくくなりました。小川さんありがとうございました。

編集後記

昨年10月1日に「総社市^{はだ}秦の郷」ウオーキングが開催された。井上秀男氏による詳しい報告が会報31号に掲載されているが、高梁川の西側の秦地区に、東側の造山古墳、作山古墳などの巨大古墳より前の3～4世紀の古墳を始め、60基以上に及ぶ一大古墳群が発見されている。これらの古墳の被葬者は誰なのか。さらに、秦の郷には秦氏の氏寺ではないかとも言われる秦原廃寺の跡や、磐座を御神体とする石畳神社や麻佐岐神社、製鉄の女神アカルヒメを祀った姫社神社など、磐座信仰を持ち殖産・技術集団であった秦氏との関係が伺われるものが多数存在する。秦氏と秦の郷との関係は本当のところどうなのか、今後の更なる調査の進展に期待が高まる。2月27日に予定されている富久豊氏による日曜サロン講演、「備中秦氏の謎に迫る」も楽しみである。

また、この3月15日には、幕末～明治初頭にかけて浦上のキリシタンが流された日生諸島の鶴島ウオーキングが企画されている。日生湾のクルージングも楽しめる内容になっており、7ページにその案内がある。この企画に合わせて今号には、岡山の宗教史に造詣の深い山田良三事務局長による「備前・備中のキリシタン」についての記事を掲載した。岡山にもこのように濃密なキリシ

タンの歴史と史跡があったのかと、驚かされた。さまざまな文献記録や法然上人絵伝などの高僧伝をはじめ、洛中洛外図のような絵画にまで描かれているように、近世以前に生きた多くの人々の宗教心の厚さは、今とはどうい比べものにならない。神仏への敬虔な信仰という基盤があったからこそ、キリシタン信仰もこのように真摯で強固なものになったのであろう。翻って現代に生きる我々は、今後どのように宗教と向き合っていけば良いのだろうか。（井上知明）

発行 岡山歴史研究会
会長代行 楠 敏明
編集長 井上知明
事務局 〒701-0204 岡山市南区大福415-14
山田 良三方
電話 090-1033-3327（携帯電話）
FAX 086-806-2525
メール rekiken.okayama@gmail.com
ホームページ <http://b.okareki.net/>